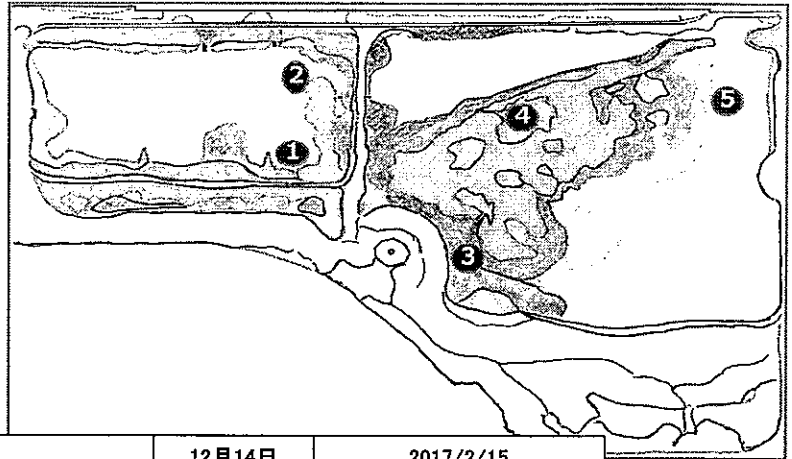
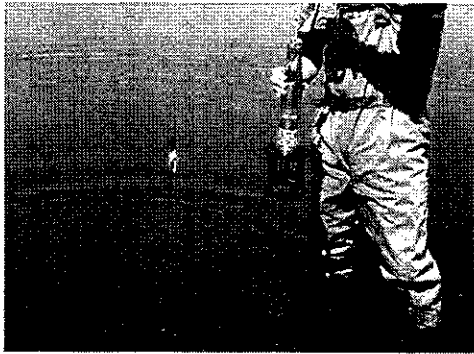


➤ 塩分濃度の測定 5地点



	7月20日 (大潮)	8月17日 (大潮)		12月14日 (大潮)	2017/2/15 (中潮)	
St. 1	26.56	25.9 水面下10cm	27.6 水面下50cm	28.5	27‰ 表層	27‰ 水深20cm
St. 2	26.79	27.8 水面下10cm	27.9 水面下50cm	29.3	28‰ 表層	29‰ 水深30cm
St. 3	24.28	27.2		27.7	26‰ 表層	26‰ 水深20cm
St. 4	24.52	27.8		26.7	26‰ 表層	26‰ 水深30cm
St. 5	26.11	27.0		29.0	27‰ 表層	27‰ 水深10cm
大阪港 波浪観測塔	30.09	28.93		30.09	26.67	

塩分測定結果。単位はpsu (実用塩分)、2/15の調査 (ポケット塩分計PAL-06S (ATAGO社製)) のみ。

- ◆ 潮の干満や水深による変動、調査時間帯にもよるが、地点ごとに明瞭な差は出なかった。
- ◆ ただ地点1、3、4は、塩分が低めで、汽水性の生物(カワゴカイ類、ポシエットゲオヨコエビ、ユスリカ など昆虫類)が豊富であった。

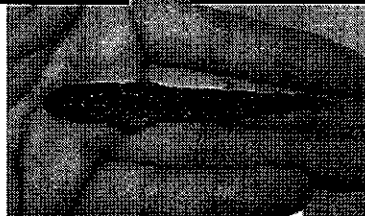
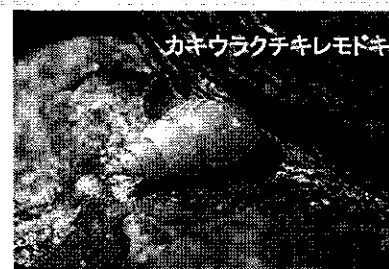
➤ 絶滅危惧種の生息調査 (9種を確認)

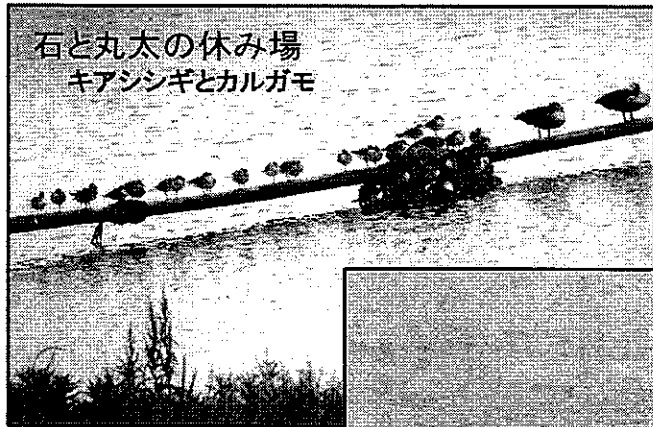
◆ ハクセンシオマネキの分布調査

1. 7月20日の調査で、237個体の巣穴を確認した(過去最大数)。
2. 昨年は直径1cm以下の小さな巣穴が多かったが、今年は1~2cmの大きめの巣穴であった。
昨年定着した個体が大きく成長したと思われる。

◆ その他の主な絶滅危惧種

1. オオノガイは1個体のみ確認(カモ類に掘り返されて激減した可能性)
2. ウミナガが昨年よりもかなり広い範囲で生息していた。
3. 西池のホソジュズモ帯でカクメイ科貝類がたくさん生息しているのが見つかった。
4. ニッポンマメアゲマキ、カキウラクチキレモドキ、スジハゼ(築港中学校の生徒が発見)なども見つかった。





2. 湿地の手入れ

1) 水鳥の休み場づくり

南池に2カ所、ヨシ原に1カ所



2) 落ち葉投入

(園内の落葉広葉樹:クヌギ・コナラ・エノキ)

目的: 干潟の生きもの生息場を新たにすること

1. 大阪市立大学との共同実験区

水質調査: 水温, 塩分, DO, pH, クロロフィル, 栄養塩

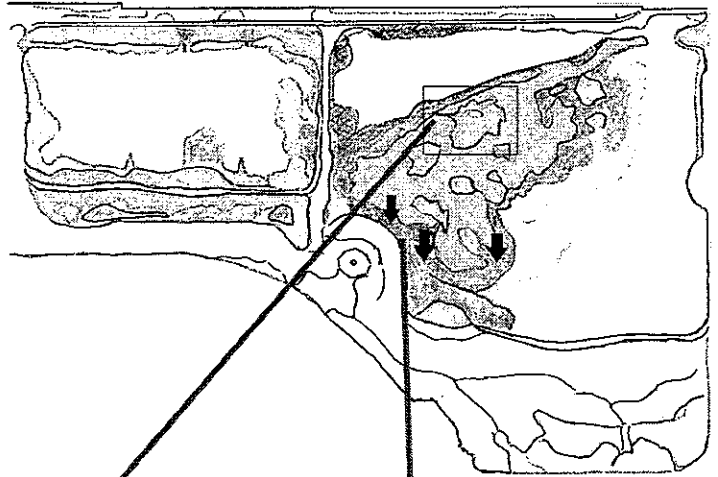
底質調査: 間隙水中のpH, ORP, 栄養塩濃度

底質分析: AVS, CN, IL, 粒度組成, クロロフィル濃度

ベントス調査: 種数と現存量 (NPOと共同で)

2. 市民との手入れ地区 (NPOサポート)

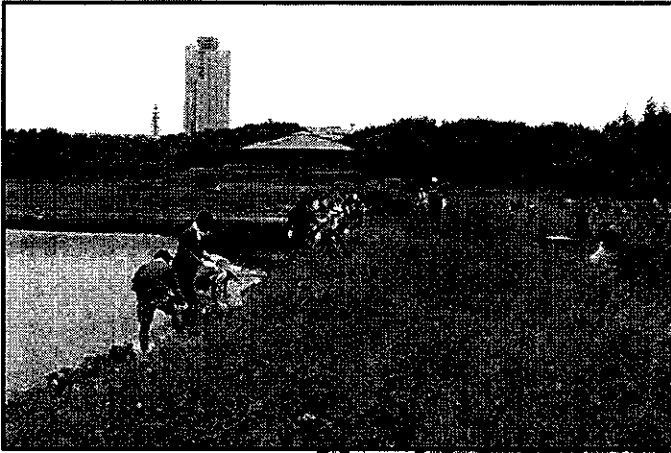
北池の展望塔前などの持ち運びしやすい浅場に春先や初冬に投入して、ベントスの長期変化をみる



2017年春に、シギ類やサギ類がよく利用するようになった。



3) 漂着ごみ収集 6月11日:250名 11月12日:100名



4) 南池水門の撤去(大阪市港湾局が実施) 2016年6~8月の期間に3回

- 南池水門が半分閉じたまま流れが悪かったため、干潮時に南池からの海水の流れをよくする目的で水門を撤去
- その結果、流れは非常に良くなり、南池に干潟が広く出るようになった。





最大干潮時の 南池干潟

冬期の昼でも以前より
干潟が広くできるように
なった



3. 環境学習 各種観察会

- | | | |
|-------------------------------|-------|------------|
| 1) バードウィーク野鳥かんさつ会 | 5月15日 | 小鳥と水鳥 |
| 2) 植物かんさつ会 | 6月25日 | 樹木と草花 |
| 3) 大阪湾生きもの一斉調査と
干潟の生きもの観察会 | 6月4日 | 「フジツボ」がテーマ |
| 4) ハクセンシオマネキ観察会 | 7月30日 | 築港中学参加 |
| 5) 干潟の渡り鳥かんさつ会 | 8月20日 | 主にシギ・チドリ類 |
| 6) 夜のアカテガニかんさつ会 | 8月20日 | 北池と周辺マツ林 |
| 7) 夕暮れカモかんさつ会 | 1月28日 | カモ類(ツクシガモ) |